

# 当別町 レクサンド市

## 姉妹都市提携 20周年記念事業



**今年**は当別町とレクサンド市が交流を開始してから20年目。

これまで、多くの相互交流を行ってきましたが、20年を迎える節目の年に、レクサンド市から70名を超える訪問団や、関係する各方面からのお客様を招待し、夏至祭、記念式典、文化交流、スポーツ交流などの行事を催しました。

交流事業では、延べ14,000人を超える参加があり、当別町民とレクサンド市民が多くの場面で触れ合い、より絆を深め、これからの交流のあり方を確認する機会となりました。

### ◆姉妹都市提携 20周年記念式典

■開催日 平成19年6月15日(金)

■会場 西当別コミュニティーセンター

泉亭町長が「当別・レクサンドの交流に尽力したすべての方々に感謝する。」と挨拶した後、これまでの交流に功績のあった方々に、感謝状が贈呈されました。ポー・ペッテルソン レクサンド市長が「これまでの両市町の絆を今後もさらに発展させて行きたい」とご挨拶されました。

泉亭町長、ペッテルソン市長が共に署名をした「宣言書」を取り交わし、これからも変わらぬ友好を誓いました。



### ■感謝状受賞者

- ・ベッティル ダニエルス 様  
姉妹都市提携調印時のレクサンド市長
- ・配野 定平 (故人) 様  
姉妹都市提携調印時の当別町長
- ・ラッセ ニーゴード 様  
レクサンド市議会議長
- ・宮永 龍美 (故人) 様  
当別・レクサンド都市交流協会 初代会長
- ・山田 岩雄 様  
当別・レクサンド都市交流協会 第2代会長
- ・辻野 修 様  
当別・レクサンド都市交流協会 第3代会長
- ・米口 稔 様  
当別・レクサンド都市交流協会 第4代会長
- ・山崎 泰博 様  
㈱ロイズコンフェクト 代表取締役社長  
民族衣装を寄贈
- ・新井 修 様  
㈱新和 代表取締役社長  
レクサンド伝統のパン窯を寄贈
- ・近藤 征夫 様  
スウェーデンハウス㈱代表取締役社長  
レクサンド市から寄贈のダーラヘストの輸送に尽力
- ・博多 昭夫 様  
トーモクヒュース㈱代表取締役社長  
パン焼き名人の招へい パン焼き器具の寄贈など
- ・八幡 敬子-ラーション 様  
レクサンド市在住の当別町国際交流連絡員としての協力のほか、相互訪問団通訳、連絡調整に尽力

## ◆記念フォーラム

### ■基調講演

泉亭町長が「美しいまち当別発展のビジョン」を、ペッテルソン市長が「21世紀のレクサンドまちづくりのビジョン」と題し、両市町の景観づくりを意識したまちづくりについて、取り組み事例を会場のスクリーンに写しながら基調講演を行いました。



### ◎泉亭俊彦 当別町長 基調講演より

「今後の交流は、お互いの地域が産業で発展につながる交流へとステップアップすることが必要で、本町の高い農業技術力を活かし、例えば、花や品質の良い麦やじゃがいもの栽培技術の交流はレクサンド市民にとって有意義なものになると考えています。これまで築いてきた友好的関係をベースにしつつ、お互いの特性である自然と環境を生かすために情報を共有し、経済交流も含めた双方向の新しい関係構築を行っていくことが肝要と考えています。」

### ◎ポー・ペッテルソン レクサンド市長

#### 基調講演より

「未来の旅はわからないことが多いのは当然ですが、地平線を眺めて準備をすることは必要です。」

私は、当別町とレクサンド市との今後の交流が拡大し成功することを確信しています。これまでの20年間の私たちの姉妹都市交流の成功が何よりの証拠です。」

### ■分科会

基調講演後に行われた分科会では、三つのグループに分かれて、「ごみ処理・リサイクルなどの地域の問題への対応」、「快適な冬の生活環境づくり」、「地球環境の危惧と私たちのできること」をテーマに参加者が話し合い、国は違っても、一人一人の意識をまち全体の問題として発展させていくことが今後のまちづくり

には重要であり、当別とレクサンドとの交流が双方が抱える課題を解決する可能性を持っていることが、両市町長により確認されました。



### ■20周年記念事業をまちづくりへつなげるために

今回の20周年記念事業は、どの会場も多くのお客様で賑わい、レクサンド市からの大勢のお客様を歓迎する光景が見られました。個人、団体、企業など町内のみなさんが一致協力して準備を進め、まち全体の協働の取り組みとなり、今回の記念事業が盛り上がったと言えます。

この20周年記念事業を契機に、両市町の特性を活かしながら文化、環境、産業経済など、幅広い分野で新しい交流を発展させることが魅力あるまちづくりにつながるのではないのでしょうか。

訪問団の方が当別町内で過ごした3日間、町内で開催された交流事業の一部をご紹介します。

### ◆パン窯火入れ式

(6/15 ふれあい倉庫)

**ふ**れあい倉庫で行われたパン窯の火入れ式では、レクサンドから贈られたパン窯に友好の灯が入れました。

昼食会では、レクサンドのレンガ職人の手によって作られた窯で、スウェーデンのパン焼き技術を習得した方々が焼いたパンを出席者に振舞い、当別とレクサンドとの友好の証となる、この窯が設置された経緯などが紹介されました。



### ◆スポーツ交流・文化交流

(6/16 あいあい公園ほか)

**ス**ポーツ団体、文化団体の協力により訪問団と当別町民が直接触れ合える行事が開催されました。



あいあい公園ではパークゴルフ、遊遊公園ではテニス、グリーンヒルカントリークラブではゴルフ競技が繰り広げられました。

当別からの訪問団がレクサンドに行った際に用具を寄贈して、ルールを伝えたパークゴルフ競技では、当別、レクサンドからの参加者同士と一緒にコースを周

り、コミュニケーションを取りながらの「世界一」決定戦が繰り広げられました。また、この日程に合わせて、遊遊公園では交流20周年を記念しての少年サッカー大会も行われました。

一方、西当別コミュニティーセンターでは、日本を理解してもらえるようにと、伝統文化に触れる場を設け、着物の着付け、茶道、華道、書道の体験が行われ、「和の心」を伝えていました。



### ◆夏至祭前夜祭

(6/16 スウェーデンプラザ)

**太**美駅前のスウェーデンプラザを会場に、夏至祭前夜祭が開催されました。

「日本の夏まつり」をテーマに町内会、商店街、PTAの協力で、わたあめ、金魚すくいといった縁日のコーナーが設けられました。

アトラクションとして催された、獅郷太鼓の演奏やふとみ元風会によるYOSAKOIの演舞、とうべつ音頭を守る会による北海盆踊りの輪にはレクサンド訪問団の飛び入り参加が見られました。



## ◆第24回 夏至祭

青空の下、昨年  
から行われて  
いるオープニングパ  
レードがスタート。民  
族衣装に身を包んだレ  
クサンド訪問団と町民  
が参加し沿道の手旗と  
歓声の中を行進し夏至  
祭がスタート。



引き続き、レクサンド記念公園では、レクサンド市  
から寄贈された青いダーラhest (木製の馬)が設置  
され、ステファン ノレーン駐日スウェーデン大使ら  
を招いて除幕式が行われました。セレモニーの中で、

公募していた馬の愛  
称が、レクサンド市か  
ら名前をとった「レク  
ク」と発表され、西当  
別中学校合唱部の歌声  
の中、「レクク」が当  
別町の人にも愛される  
ようにと泉亭町長より  
挨拶がありました。



夏至祭メイン会場のスウェーデン公園で行われたグ  
リーンコンサートには、レクサンドの楽師、当別中学  
校吹奏楽部、当別アンサンブルファミリーらが出演し、  
来場者が芝生の上に腰を下ろして演奏に聞き入る光景  
が見られました。

また、レクサンドの楽師たちは、本場レクサンドさ  
ながらに、マイストング(夏至柱)の立ち上げの際に、



バイオリンで楽曲を演奏して祭の雰囲気盛り上げま  
した。マイストングの周りを囲んでのフォークダンスで  
は、レクサンドのフォークダンスグループ、訪問団と町  
民が大勢参加し、幾重もの輪を作り踊り続けました。

物販コーナーでは、スウェーデンガラスの販売や、  
スウェーデンの夏至祭には欠かせない、パン、ハム、  
ニシンのマリネなどを使った北欧プレートが人気を集  
めていました。

今年、初の試みとして行  
われた夏至祭スタンプラ  
リーでは、オープニング  
セレモニー、レクサンド  
記念公園、夏至祭会場全てを  
回ってスタンプを集めた来  
場者の中から、抽選で当別  
の特産品が当たる抽選会が  
行われました。



■交流が残したもの 当別町には、レクサンドとの友  
好を表すような道路、公園など、形として残るものが  
数多く造られてきましたが、今回の訪問団の受入れに  
ご協力いただいたホストファミリーの方々、前夜祭、  
夏至祭、記念事業などに参加いただいたの方々、また、  
これまでに行ってきた交流に関わった数多くの方たち  
が作り上げた当別とレクサンドの人々をつなぐ目に見  
えない絆が、今後も、二つのまちが交流を続けていく  
架け橋になるでしょう。

